

Reggio Emilia Approach

レッジョ・ エミリアの 教育哲学

ドキュメンテーションから考える、
これからの保育

2019年2月3日(日)

日本科学未来館 未来館ホール

レッジョ・エミリア市の教育の礎となった「ローリス・マラグッツィ (Loris Malaguzzi)」の教育哲学や、同市の保育実践・ドキュメンテーションを題材に、日本のこれからの保育を考えます。市の乳幼児教育研究機関「レッジョ・チルドレン」で運営やイタリア国内外の研修に携わられている、マリーナ・カスタネッティ氏も来日され、お話を伺います。一部、二部の間には、国内の実践者による「ドキュメンテーション ダイアログ」(ドキュメンテーションを題材とした、実践共有&対話の場)を行います。

第一部

ローリス・マラグッツィとこれからの保育

10:30-12:30

登壇者(敬称略):

里見実 國學院大学名誉教授

小玉重夫 東京大学大学院教育学研究科長、総合教育科学専攻基礎教育学コース教授

野澤祥子 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 准教授

ドキュメンテーション ダイアログ

(一部、二部通しチケットを購入いただいた方が対象となります)

12:40-13:30

第二部

保育の質につながるドキュメンテーション

14:00-16:00

登壇者(敬称略):

マリーナ・カスタネッティ レッジョ・チルドレン教育責任者

秋田喜代美 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター長

松本理寿輝 まちの保育園・こども園 代表

*第二部には日本語の通訳が入ります。



マリーナ・カスタネッティ

世界で最も有名な幼児教育施設であるディアーナ幼児学校にてローリス・マラグッツィとヴェア・ヴェッキ(アトリエリスタ)と共に教師として17年間勤める。2000年からは、レッジョ・エミリア市のドキュメンテーションセンターの教師へと異動し、現在ドキュメンテーション長を務める。同市出版の書物等の執筆や編集、並びに画像にも貢献している。ブラジル、クロアチア、ニュージーランド、中国を始め欧米諸国、アフリカ諸国の研修等も担当し経験豊富である。

日時

2019年2月3日(日) 10:30-16:00

会場

日本科学未来館 未来館ホール 東京都江東区青海2-3-6

参加費

第一部、二部 各3,500円

第一部、二部通しの場合 6,000円 (ドキュメンテーション ダイアログにも合わせてご参加いただけます)

主催

The Children and Community Learning Center(CCLC), まちの研究所株式会社



後援

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)



詳細・チケットの
購入はこちらから

*「The Children and Community Learning Center」(通称 CCLC) 及び「まちの保育園・こども園」

東京大学大学院教育学研究科との「保育・教育・研究交流連携事業に関する協定」を締結し、また、イタリア レッジョ・エミリア市の教育機関「レッジョ・チルドレン」のインターナショナルネットワークに加入しております。日本の保育・教育実践を海外に発信し、レッジョ・エミリア市を始めとして、国外の教育実践にも目を向け、学びあいたいと考えております。まちの保育園・こども園・まちの研究所と「レッジョ・チルドレン」との、コーディネーター/リサーチャーとして、森真理先生(鶴川女子短期大学 教授)に関わっていただいています。

*レッジョ・エミリア/レッジョ・エミリアアプローチ(教育)とは

レッジョ・エミリア教育は、北イタリアの小都市レッジョ・エミリア市でかたちづけられた教育であり、専門的に様々な理論や教育思想を土台にしなが、コミュニティ(共同性)の中で豊かな保育がなされ、保育環境やこどもたちの姿が創造的で美しいため、レッジョ教育に魅了される人は後を絶ちません。1991年にアメリカ「Newsweek」誌に「世界で最も優れた乳幼児教育が行われている学校」として同市立ディアーナ幼児学校が紹介されたことがきっかけの一つとなり、先進的な乳幼児教育として世界的な注目を集めるようになりました。以来、世界的に広がり、それぞれの国で発展を遂げています。